

2025年5月

2025年3月期

(2024年4月1日～2025年3月31日)

決算説明資料

ディーバイエックス株式会社



1	当期のハイライト	(1) 当期方針と取り組みの成果	P 4
2	当期の決算概況	(1) 要約損益計算書 (2) 売上高 (3) 売上総利益 (4) 営業利益 (5) 当期純利益 (6) 要約貸借対照表 (7) 要約キャッシュ・フロー計算書 (8) 配当 (9) 資本コストと株価を意識した経営	10 11 16 18 20 21 22 23 24
3	2026年3月期の見通し	(1) 2026年3月期の方針と取り組み (2) 連結業績予想（売上高） (3) 連結業績予想（営業利益、当期純利益） (4) 配当予想	26 27 28 29
4	参考資料	(1) 会社概要 (2) 会社沿革 (3) 事業系統図 (4) 事業の特徴 (5) 企業理念	31 32 33 34 35

1 当期のハイライト

方針

① 利益率、生産性向上

- 高利益率商品の売上高構成比のUP
- インセンティブ・一括買取の推進
- DX推進による事務フローの自動化と省力化
- 基幹システム改善による物流と販売管理機能の強化

高利益率商品であるRAQUOSを含む自社企画関連商品の売上高は、
前期比14.9%増、売上高構成比は0.1ポイント増加

前期：3.0% → 当期 3.1%

全社粗利率：前期 10.4% → 当期 9.9%

特定保険医療材料の償還価格下落の影響

粗利率の低い新商品への切り替えにより低下

償還価格の改定があったが、インセンティブの獲得は前年比10.4%増

DX：販売管理システム構築プロジェクト、CRM/SFA構築プロジェクト

業務効率化と生産性向上を目指すと共に、働き方や組織体制の強化を行うことを
目標とする

方針

2

地域依存度低減

- 商圈拡大、施設拡大、品目拡大
- 主要大学、主要病院の新規獲得
- 事業単位での配賦後営業利益黒字化

施設拡大

新規施設：42 喪失施設：28

※新規施設：前期売上実績無し、当期売上高1百万円以上／喪失施設：前期売上高1百万円以上、当期売上実績無し

売上倍増施設：20 売上半減施設：18

※売上倍増施設：売上高が前期に対して200%以上かつ10百万円以上増加

売上半減施設：売上高が前期に対して50%以下かつ10百万円以上減少

営業基盤の強化

島根出張所、沖縄出張所をそれぞれ営業所に昇格

関東エリアの売上割合

売上割合 (%)	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
関東エリア	66.2	62.5	62.9	61.7	60.9

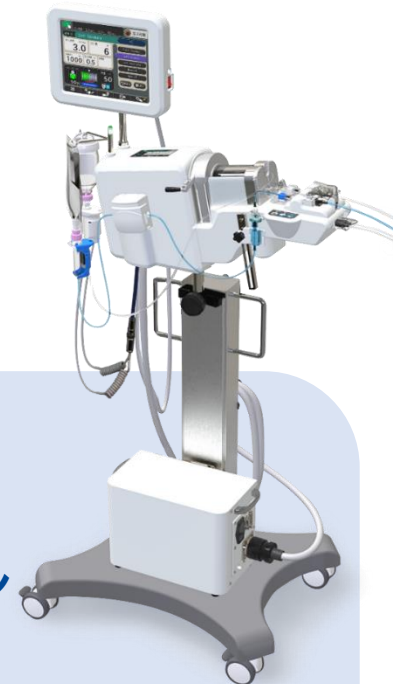
方針

③ 強靱な事業ポートフォリオの構築

- 輸入商社機能の強化
- ニーズ志向の製品探索と導入
- RAQUOS事業推進
- オンリーワン商品、自社企画品の販売拡大
- M&A、投資の推進

RAQUOS事業

- ・国内トップシェアを目指す自社企画商品
- ・本体を販売（設置）後に消耗品を継続的に販売するビジネスモデル
- ・売上高 前期比37.3%増



造影剤自動注入装置 RAQUOS
自社企画商品（製造は委託）

売上推移	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高（百万円）	26	136	197	271

2024年10月に医療機器開発のスタートアップ企業AMI株式会社へ出資、超聴診器の販売パートナー契約を締結し、心疾患早期発見のための聴診DXの全国展開を進める

方針

4

新たな成長基盤の強化（市場）

- 国内シェアNo1に向けたRAQUOS事業の推進
- 海外市場の開拓（アジア向けから）
- R-SUD事業、リサイクル事業の確立
- 営業部門と技術部門の連携による新製品発掘

R-SUD事業（使用済みSUDの収集～再製造～販売）※当社は収集、販売

2024年6月の診療報酬改定により、新たに診療報酬が加算される制度が導入されたことにより、R-SUDの使用が増加している

- ・回収先施設数 210（前期末202）
- ・販売先施設数 53（前期末48）

カテーテルリサイクル事業（使用した医療機器から有価物を抽出してリサイクルする）

- ・回収先施設数 78（前期末71）

RAQUOS海外展開

2024年9月11日～13日開催のMEDICAL FAIR ASIA 2024へ出展

海外展開：台湾（2026年9月頃上市予定）、韓国（2027年6月頃に遅延）

方針

5

成長基盤の強化（組織）

- E:DX推進によるペーパーレス化、ガソリン消費量の削減、環境保全に配慮した事業活動
- S:ダイバーシティ推進、ワークスタイル変革、働き甲斐のある職場環境の整備
- G:コーポレートガバナンス強化、コンプライアンス推進、内部統制の適切な運用、透明性の高い情報開示

女性活躍・働き方改革

働き方見直しプロジェクト

- ・女性活躍促進法に基づき女性従業員の働きやすさ向上のための活動
- ・最終的には男性従業員を含めた全従業員の働きやすさ向上のための活動

人的資源の活用

人的資源プロジェクト

- ・人的資本経営及びESG経営社会（Social）分野における施策の促進
- ・人的資源の活用および社員が働き続けたいと思える職場環境の整備

経営戦略室の新設

中期経営計画、M&Aおよびアライアンス、サステナビリティ経営など会社全体の成長戦略を策定し、持続可能な経営を推進する役割

2 当期の決算概況

要約損益計算書



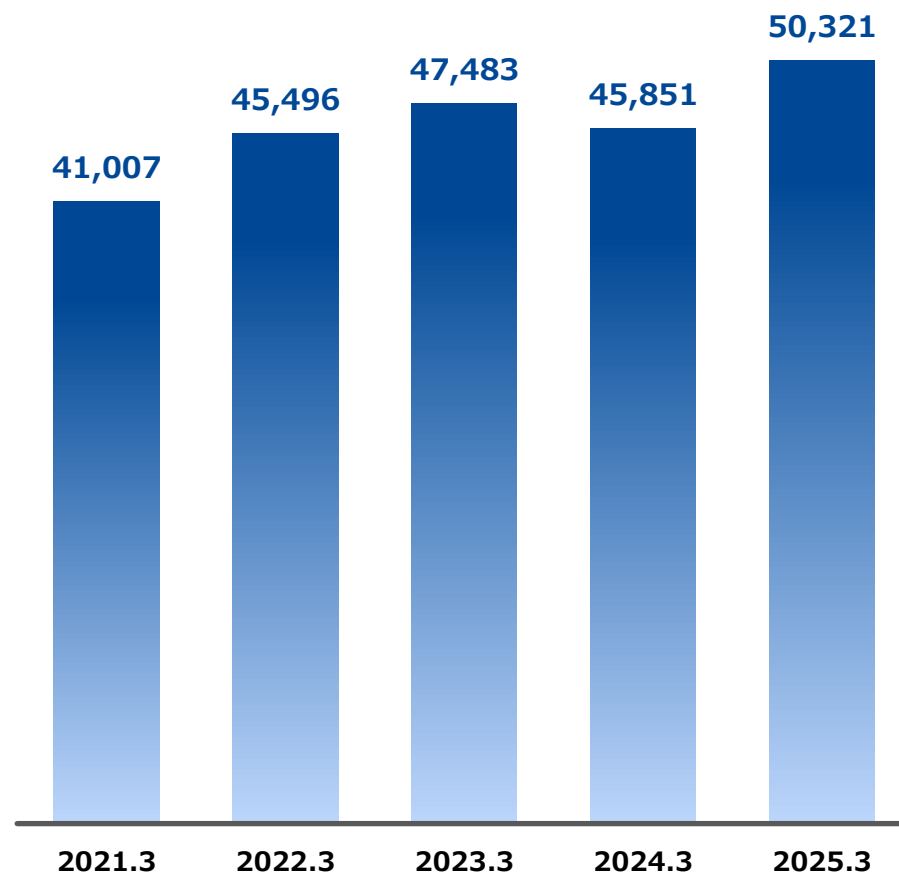
	実績 (百万円)	対売上高 (%)	前期実績 (百万円)	増減率 (%)
売上高	50,321	100.0	45,851	+9.8
売上総利益	4,994	9.9	4,764	+4.8
販管費	4,456	8.9	4,111	+8.4
営業利益	537	1.1	653	▲17.7
経常利益	542	1.1	662	▲18.1
当期純利益	410	0.8	172	+137.2

(単位：百万円)

売上高 503.2億円

前期比 9.8%増 

	金額 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	42,519	+8.2
虚血	3,193	+30.0
その他	4,608	+12.7
合計	50,321	+9.8



売上高（不整脈事業）



売上高 425.1億円

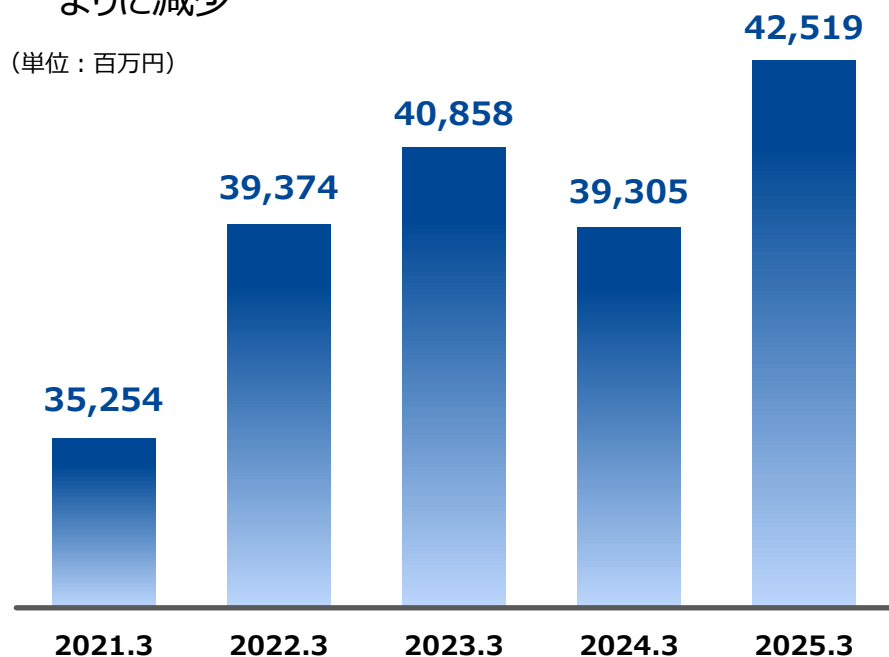
前期比

8.2%増



- 症例数が増加
- 冷凍ABL用カテーテルなどがPFA（パルスフィールドアブレーション）用カテーテルへの切り替えにより減少

（単位：百万円）



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
PM ペースメーカー	3,920	3,844	+2.0
ICD 植込型除細動器	2,307	2,464	▲6.4
CRT-D 機能付植込型除細動器	1,773	1,743	+1.7
電気生理検査用カテーテル	11,744	11,230	+4.6
心腔内超音波プローブ	4,561	4,143	+10.1
ABL用機能付カテーテル	5,708	5,842	▲2.3
ABL用カテーテル	194	284	▲31.7
冷凍ABL用カテーテル	2,251	2,661	▲15.4
PFA（パルスフィールドアブレーション）用カテーテル	1,788	—	—
その他	8,269	7,091	+16.6
合計	42,519	39,305	+8.2

売上高（虚血事業）



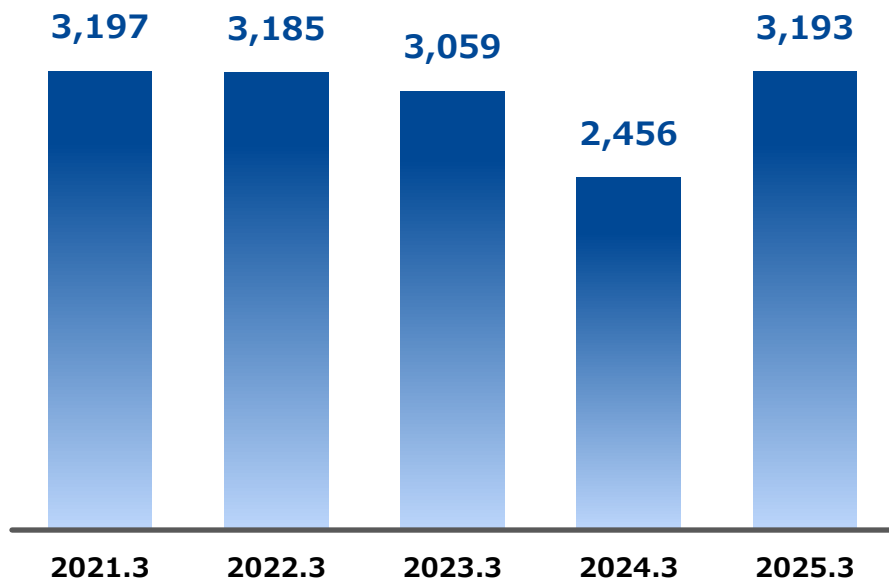
売上高 31.9億円

前期比

30.0%増 

- レーザー事業は総販売元としての取扱い終了により減少傾向
- その他では新規施設獲得のほか経皮的血管形成術用穿刺部止血材料の販売が好調

（単位：百万円）



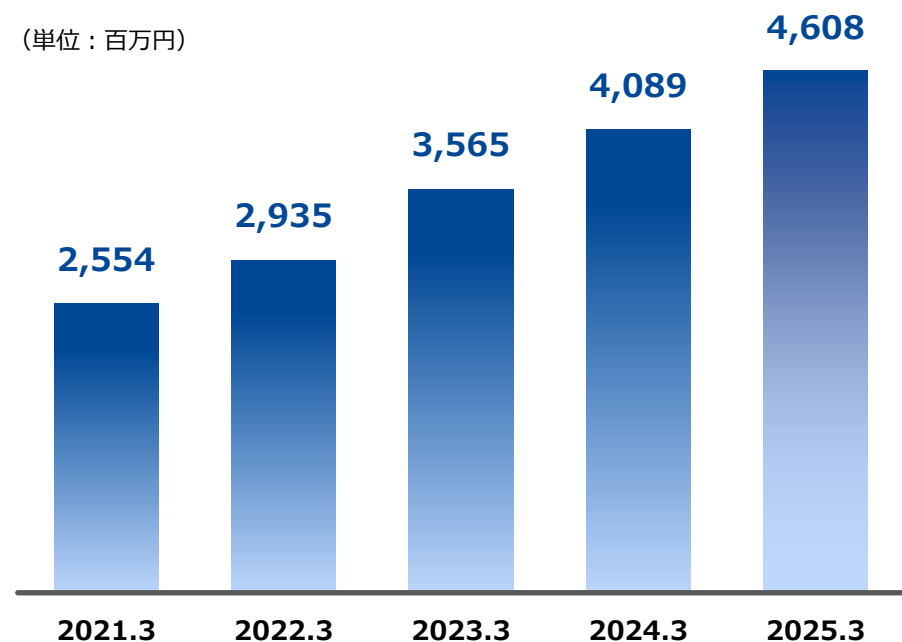
	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
レーザー事業	221	276	▲20.1
その他	2,971	2,179	+36.4
合計	3,193	2,456	+30.0

売上高 46.0億円

前期比 12.7%増 

- ストラクチャーのTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）などが好調
- 頭部腹部領域も拡大

（単位：百万円）



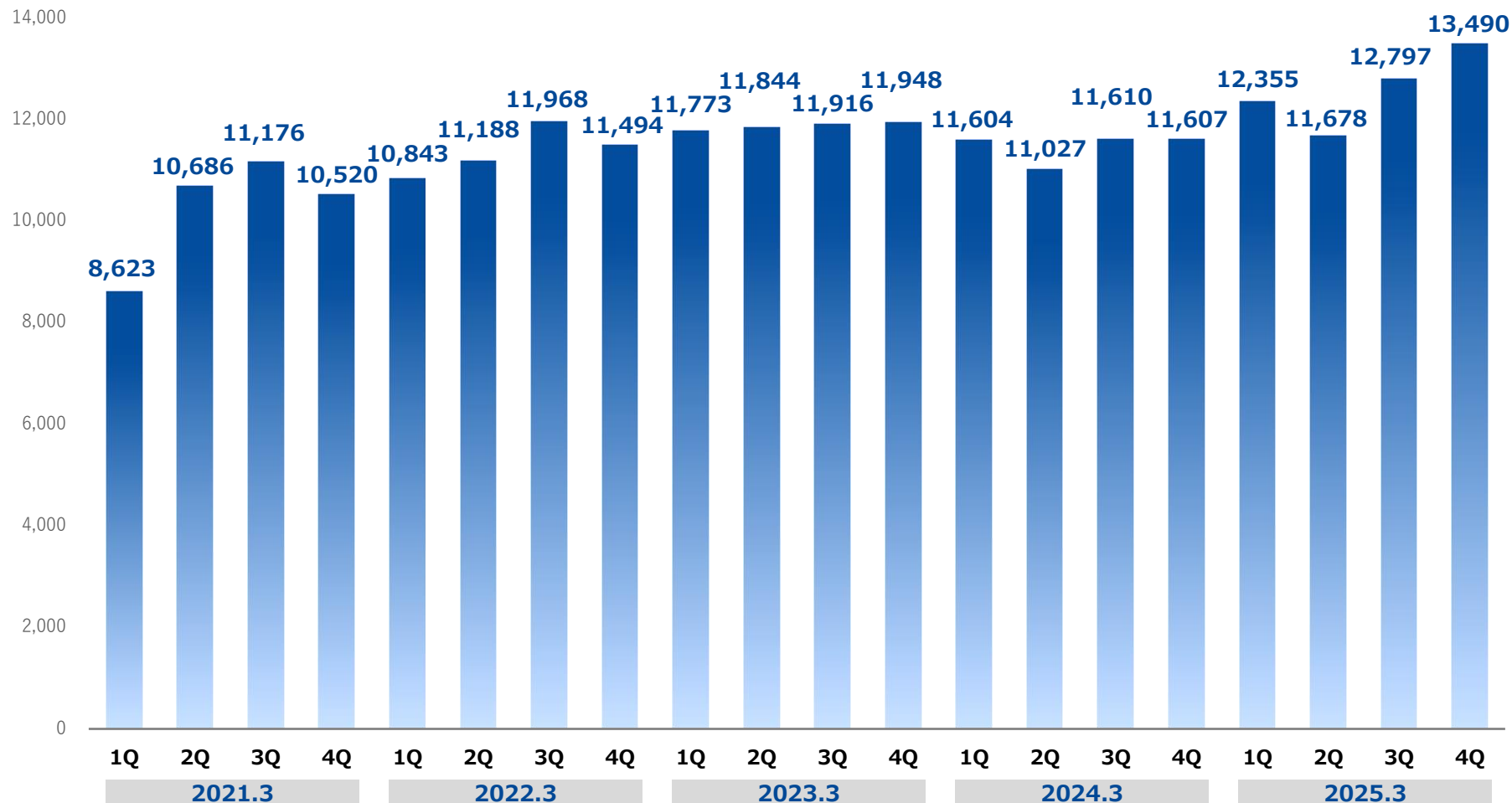
	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
ストラクチャー	1,853	1,706	+8.6
頭部腹部領域	1,515	1,396	+8.5
心臓血管外科	234	188	+24.4
外科	248	219	+13.1
その他	757	578	+31.0
合計	4,608	4,089	+12.7

四半期毎売上高の推移



四半期売上高としては、過去最高となりました。

(単位：百万円)



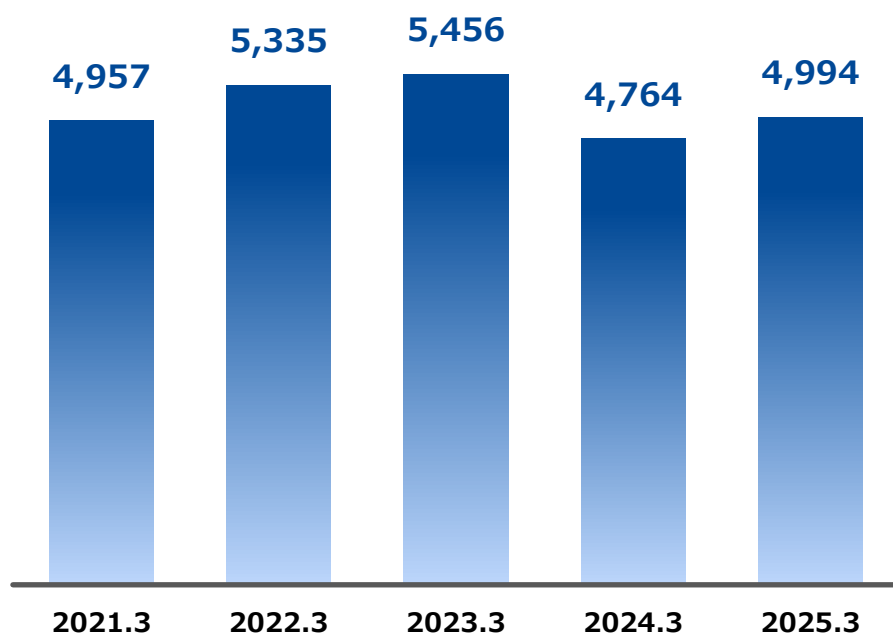
売上総利益 49.9億円

前期比

4.8%増 

■ 粗利率9.9%（前期10.4%）

（単位：百万円）



	当期 (百万円)	前期 (百万円)	増減率 (%)
不整脈	4,122	3,968	+3.9
虚血	373	329	+13.4
その他	498	466	+6.7
合計	4,994	4,764	+4.8

売上総利益（事業別）



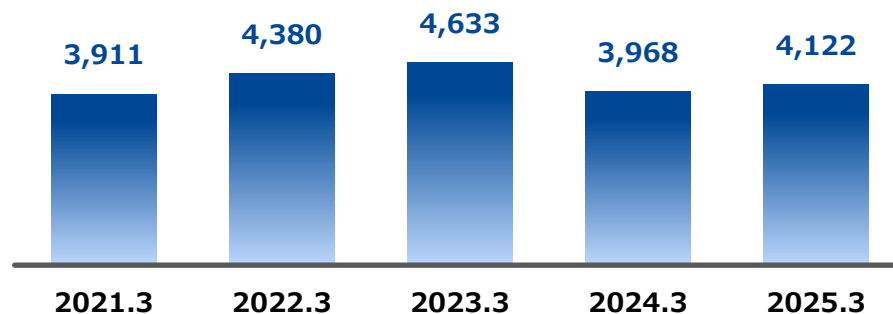
（単位：百万円）

不整脈事業

セグメント利益 **41.2億円**

前期比 **3.9%増**

- 売上高増加（前期比8.2%増）
- 粗利率低下（粗利率9.7%、前期10.1%）
- 仕入単価の上昇による粗利率の低下

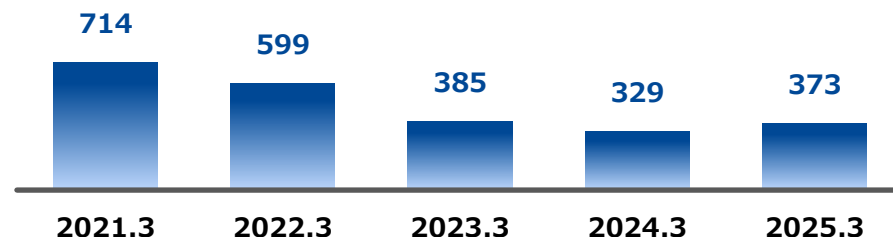


虚血事業

セグメント利益 **3.7億円**

前期比 **13.4%増**

- 売上高増加（前期比30.0%増）
- 粗利率低下（粗利率11.7%、前期13.4%）
- 販売代理店業の割合増加

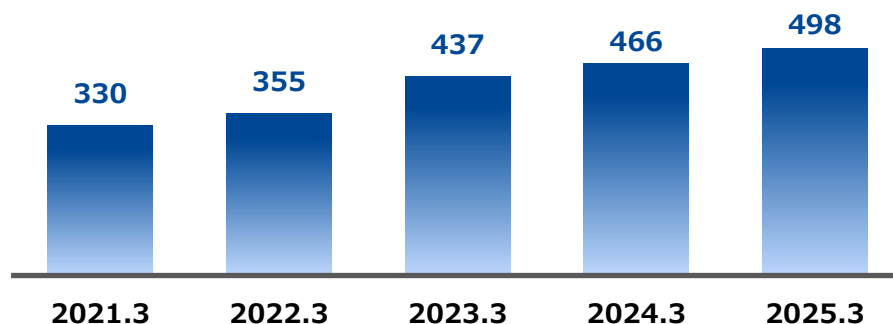


その他

セグメント利益 **4.9億円**

前期比 **6.7%増**

- 売上高増加（前期比12.7%増）
- 粗利率低下（粗利率10.8%、前期11.4%）
- 仕入単価の上昇による粗利率の低下



営業利益 5.3億円

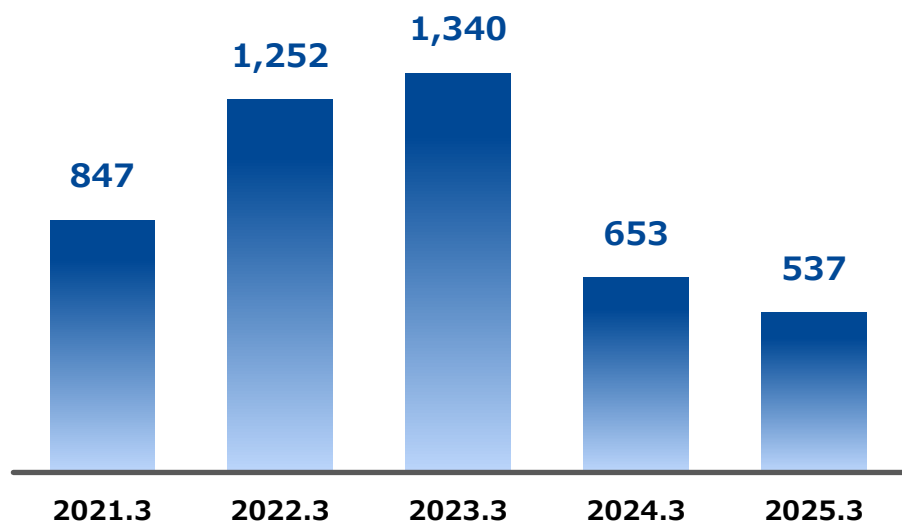
前期比

17.7 %減

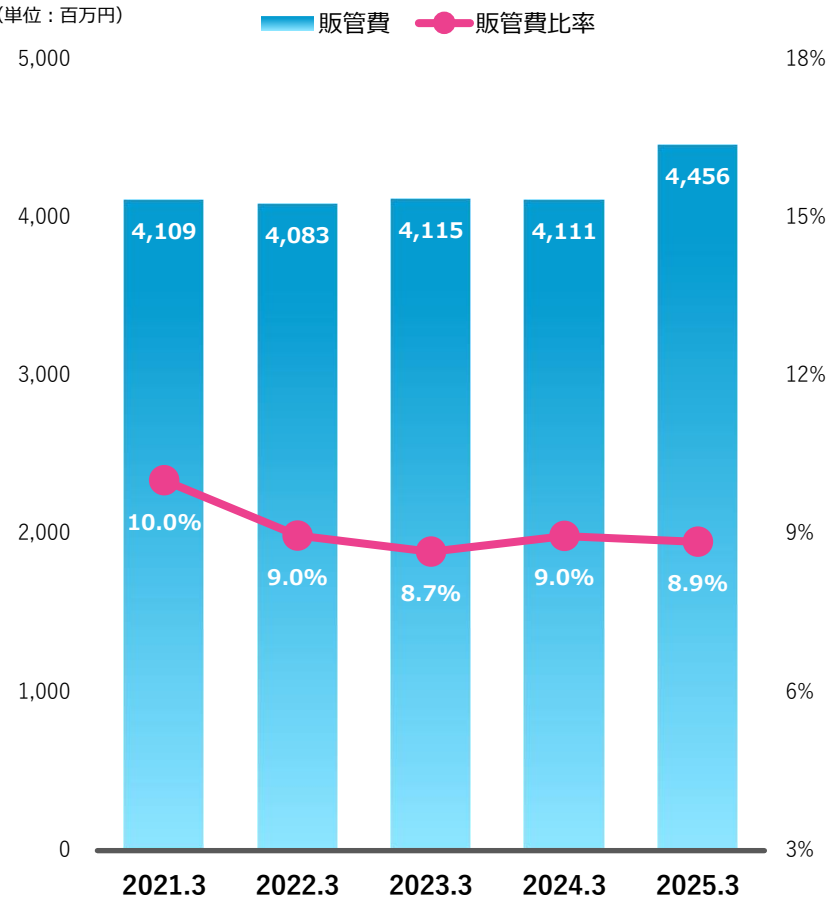


- 売上総利益 前期比4.8%増
- 販売管理費 前期比8.4%増
- 売上高営業利益率1.1%（前期1.4%）
- 売上高販管費比率8.9%（前期9.0%）

（単位：百万円）



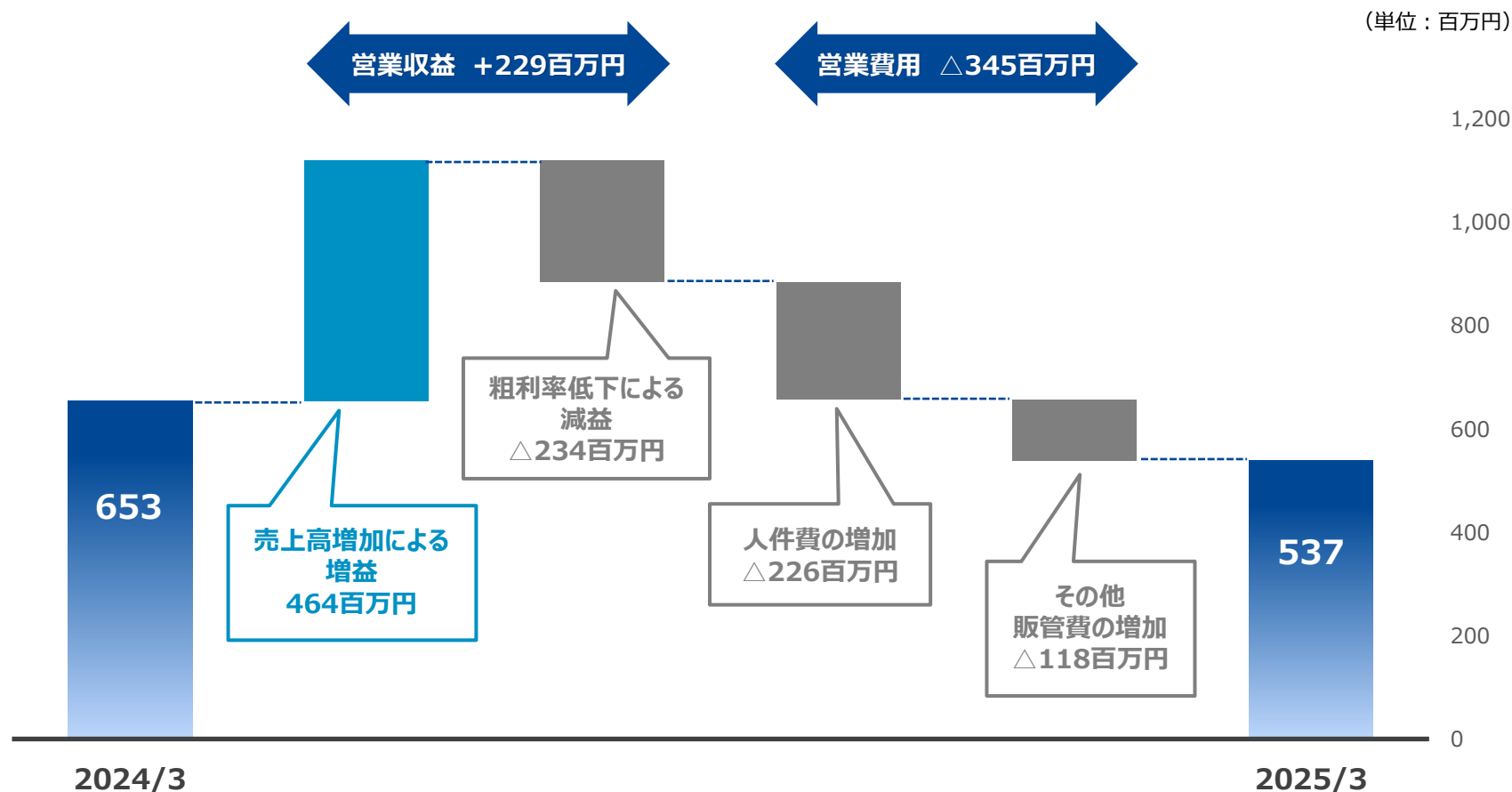
（単位：百万円）



営業利益増減分析



売上高の増加で464百万円増益、粗利率の低下で234百万円減益、人件費の増加で226百万円減少、その他販管費の増加で118百万円減少、前期から115百万円減益

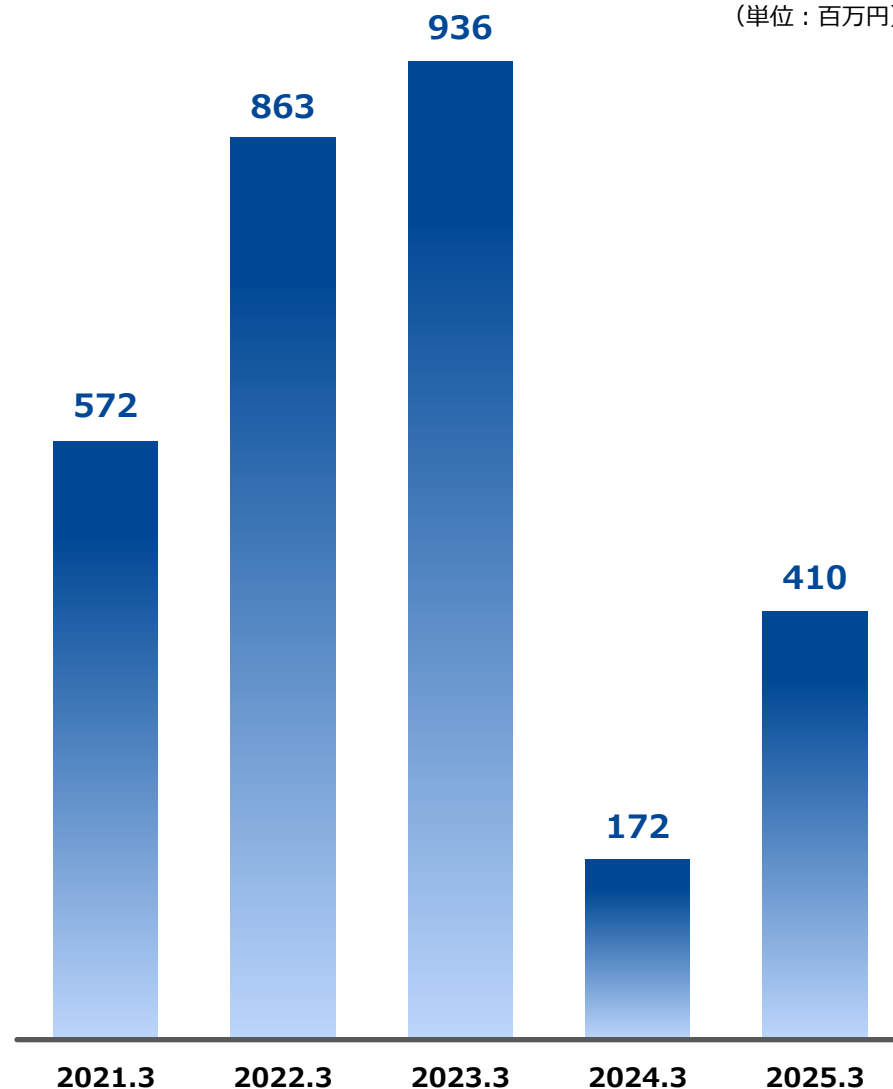


当期純利益 4.1億円

前期比 **137.2 %増** 

(単位：百万円)

- 前期は投資有価証券評価損として、2.9億円の特別損失を計上
- 自己資本当期純利益率**4.5%**（前期**1.9%**）
- 自己資本当期純利益率の推移
 - 2021/3 7.4%
 - 2022/3 10.5%
 - 2023/3 10.5%
 - 2024/3 1.9%
 - 2025/3 4.5%



要約貸借対照表



	実績 (百万円)	構成比 (%)	前期末実績 (百万円)	増減率 (%)	主な増減要因
流動資産	23,436	91.8	21,156	+10.8	現預金の減少 ▲2,430百万円 売掛金の増加 +1,224百万円 商品の増加 +1,160百万円 金銭の信託の増加 +2,000百万円
固定資産	2,100	8.2	1,522	+38.0	投資有価証券の増加 +228百万円 工具、器具及び備品の増加 +214百万円 差入保証金の増加 +88百万円
資産合計	25,537	100.0	22,678	+12.6	
流動負債	15,881	62.2	12,958	+22.6	買掛金の増加 +2,817百万円 未払法人税等の増加 +126百万円
固定負債	528	2.1	521	+1.2	退職給付引当金の増加 +25百万円
負債合計	16,409	64.3	13,480	+21.7	
純資産	9,127	35.7	9,198	▲0.8	剰余金の配当による減少 ▲522百万円 当期純利益 +410百万円
負債純資産合計	25,537	100.0	22,678	+12.6	

要約キャッシュ・フロー計算書

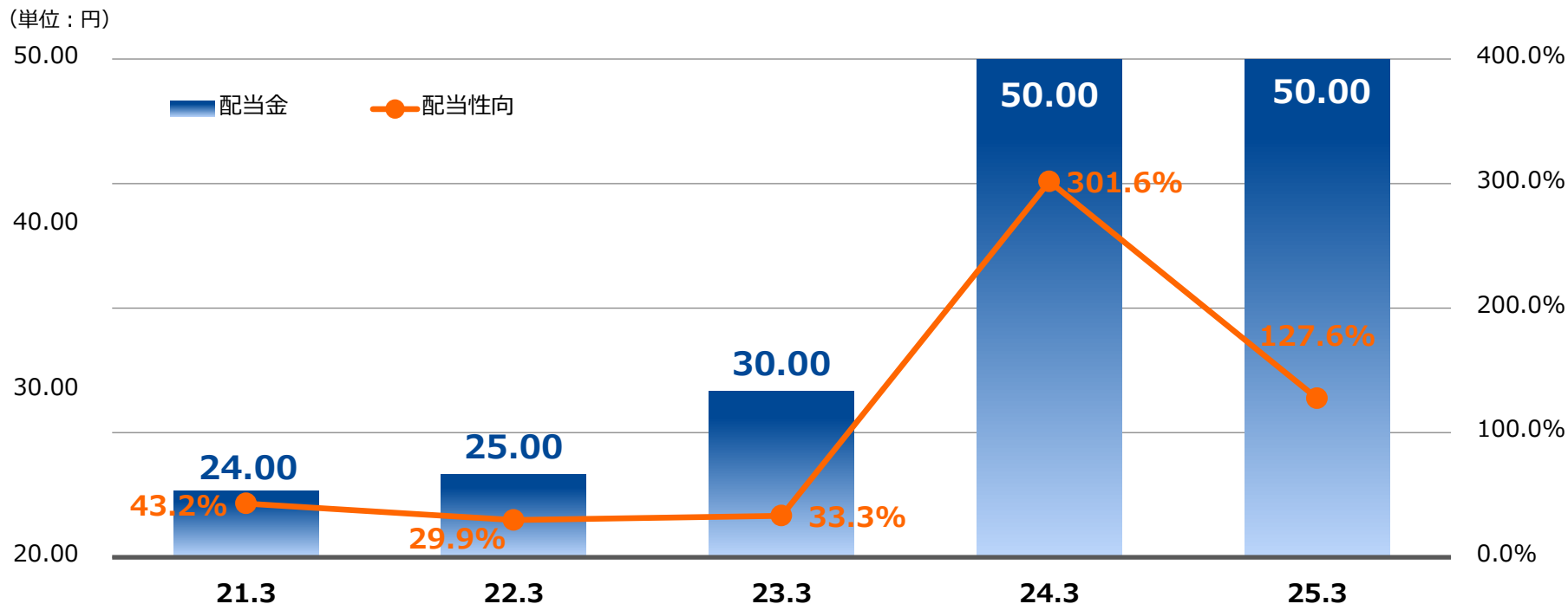


	当期 (百万円)	前期 (百万円)	当期の主な増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	725	▲422	税前当期純利益（537百万円） 減価償却費（577百万円） 売上債権の増加（▲1,314百万円） 棚卸資産の増加（▲1,518百万円） 仕入債務の増加（2,816百万円） 法人税等の支払額（▲95百万円）
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲631	▲396	有形固定資産の取得（▲324百万円） 投資有価証券の取得（▲214百万円） 差入保証金の差入（▲93百万円）
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲524	▲312	配当金の支払（▲521百万円）
現金及び現金同等物の増減額	▲430	▲1,124	
現金及び現金同等物の期首残高	7,489	8,614	
現金及び現金同等物の期末残高	7,058	7,489	

配当方針

株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営課題として、企業価値および株式価値の向上を図ることで株主還元を継続的かつ安定的に強化する。配当については、DOE（株主資本配当率）5.0%以上を目途に配当額を決定する。

期末配当 50.0円（配当性向 127.6%、DOE 5.7%）



1.現状分析 ROE

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
当期純利益（千円）	572,367	863,016	936,184	172,913	410,119
ROE（%）	7.4	10.5	10.5	1.9	4.5

2.現状分析 PBR

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
最高株価	1,195	1,249	1,097	1,114	1,016
最低株価	725	936	836	810	877
PBR（最高株価）	1.62	1.62	1.32	1.25	1.15
PBR（最低株価）	0.98	1.22	1.01	0.90	1.00

3 2026年3月期の見通し

2026年3月期の方針と取り組み



方針①	地域的依存度低減 ～コア事業での競争力の保持～	「効率的成長」に向け、インプット・アウトプット両面から生産性向上を図る。
方針②	地域的依存度低減 ～コア事業での競争力の保持～	全国展開とシェア拡大を推進し、拠点ごとに資本コストを意識したマネジメント力の強化を図る。
方針③	強靱な事業ポートフォリオ ～リスクの分散とニーズの追求～	主力製品の取引喪失による粗利率の低下や取扱い商品の減少による機会ロスを解消する。
方針④	新たな成長基盤の強化（市場） ～世界中の生命と健康を守る～	海外事業開拓と隣接事業開拓に向けて。
方針⑤	成長基盤の強化（組織） ～技術・環境の変化を機会にする～	全社的な取り組みとして、継続的な取り組み状況の開示。開示項目の充実を図る。

連結業績予想（売上高）



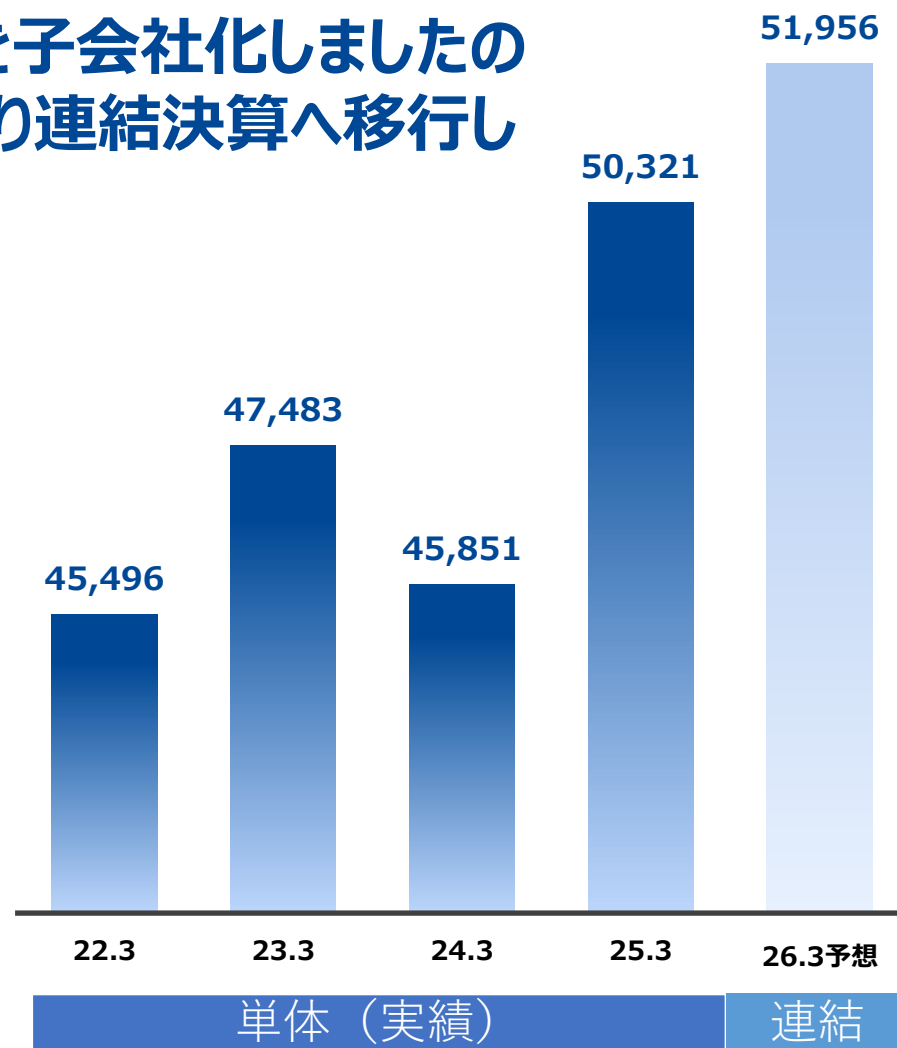
2025年4月2日付でホルター心電図解析サービスを行う総合医療サービス株式会社を子会社化しましたので、2026年3月期第1四半期より連結決算へ移行しました。

（単位：百万円）

売上高 **519.5億円**

前期比 — %増

- 全国展開、施設拡大、シェアUP、品目拡大による売上増加を見込む
- RAQUOSの拡販を見込む



連結業績予想（営業利益、当期純利益）

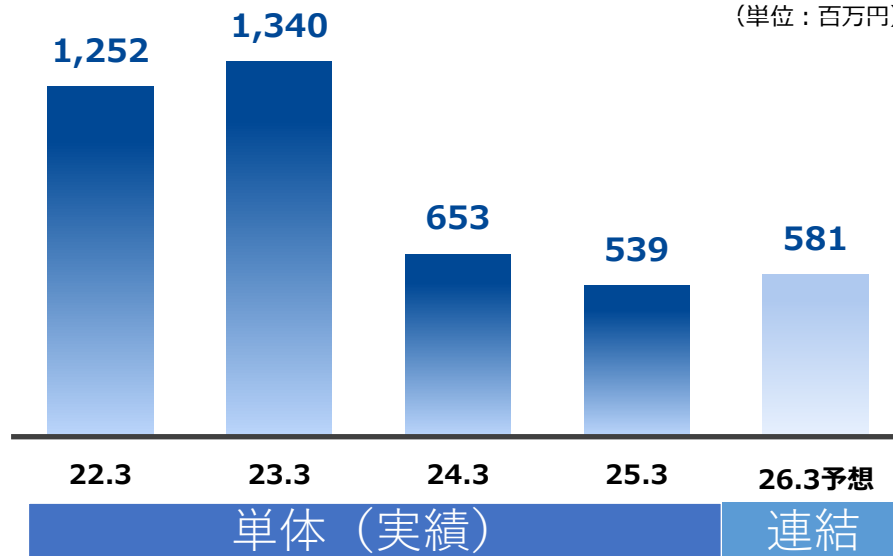


（単位：百万円）

営業利益 5.8億円

前期比 ー%増

- 売上高の増加を見込む（営業利益増加要因）
- 粗利率の上昇を見込む（営業利益増加要因）
- 販管費（人件費）の増加を見込む

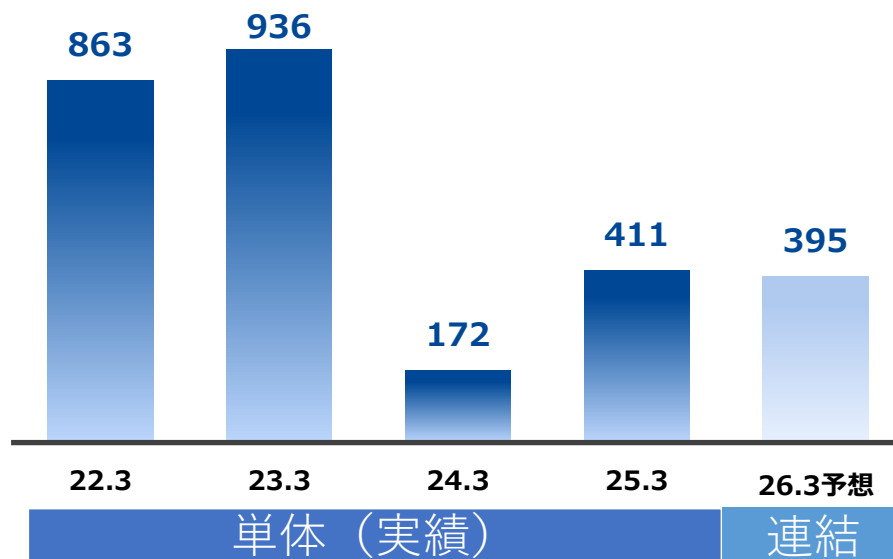


当期純利益 3.9億円

前期比 ー%減

予想EPS 37円66銭

前期実績 39円20銭



期末配当金 **50.0円**

2025年3月期 **50.0円**

配当性向 **132.8%**

2025年3月期 **127.6%**

配当方針を継続

(単位：円)

60.00

■ 配当金

● 配当性向

500.0%

48.00

50.00

50.00

50.00

400.0%

36.00

301.6%

300.0%

24.00

30.00

200.0%

12.00

25.00

127.6%

132.8%

100.0%

22.3

23.3

24.3

25.3

26.3予想

0.0%

4 参考資料

会社概要



注：2025年3月31日時点の状況です。

設立 1986年4月1日
資本金 344,457千円
従業員数 334名（営業部門255名）

- ソリューション・プロバイダー
- 地域密着営業
- スペシャリスト集団
- 挑戦型企业

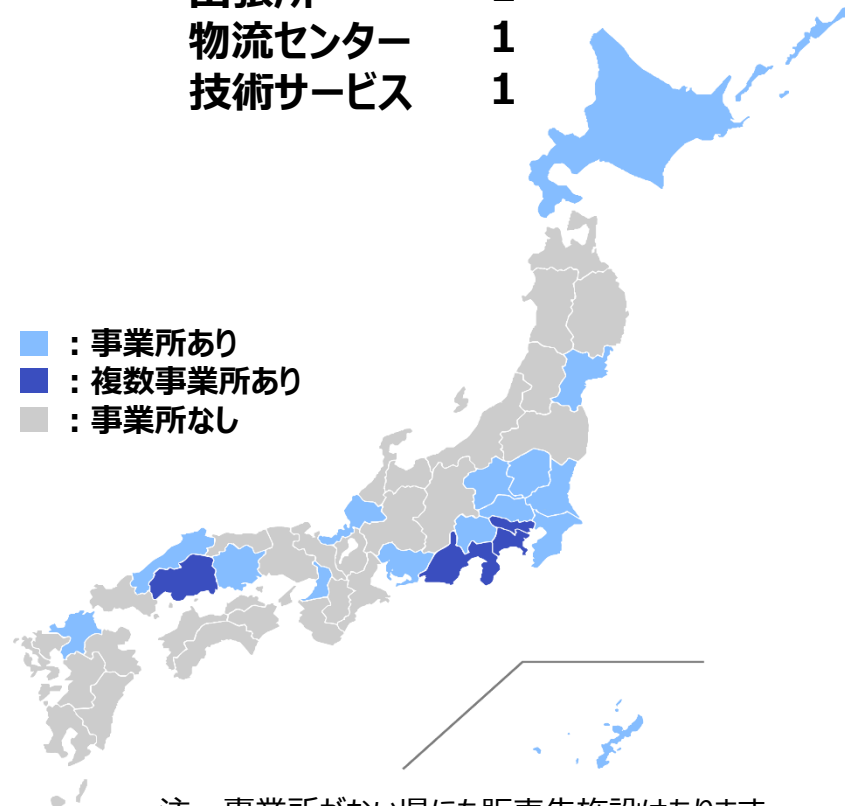
病気で苦しむ人々の
Quality of Lifeの向上

人に優しい医療への貢献



取扱商品数 8,418
販売先施設 1,171

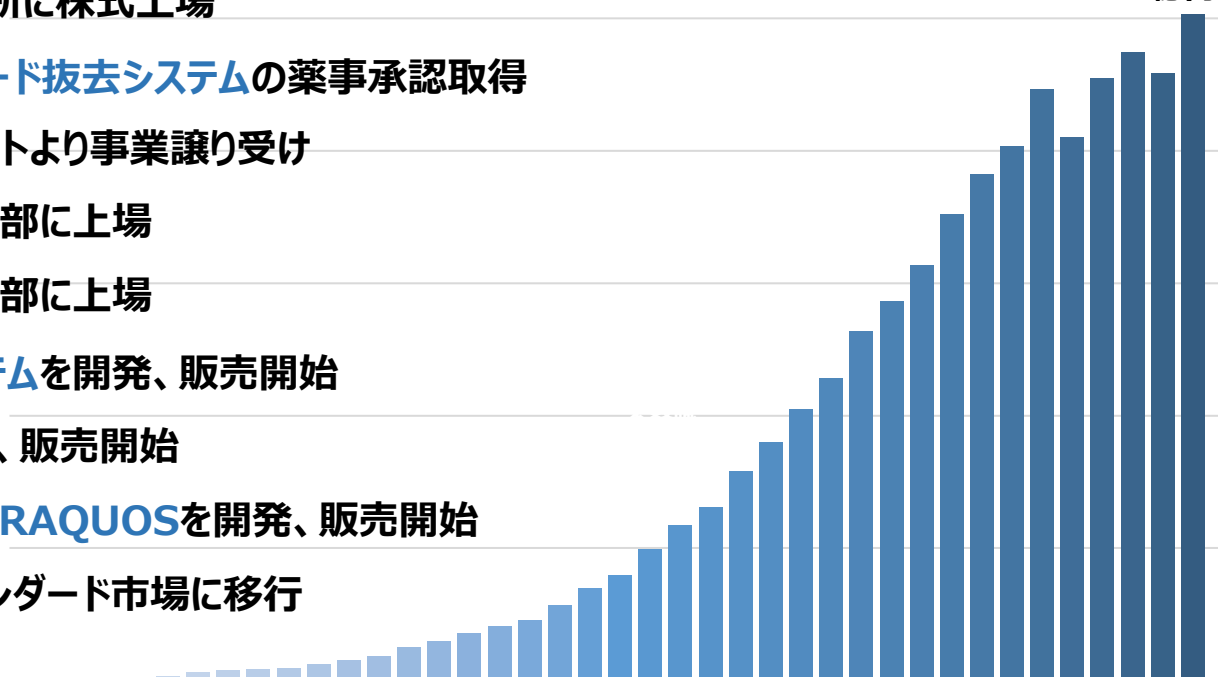
事業所数 営業所 24
出張所 1
物流センター 1
技術サービス 1

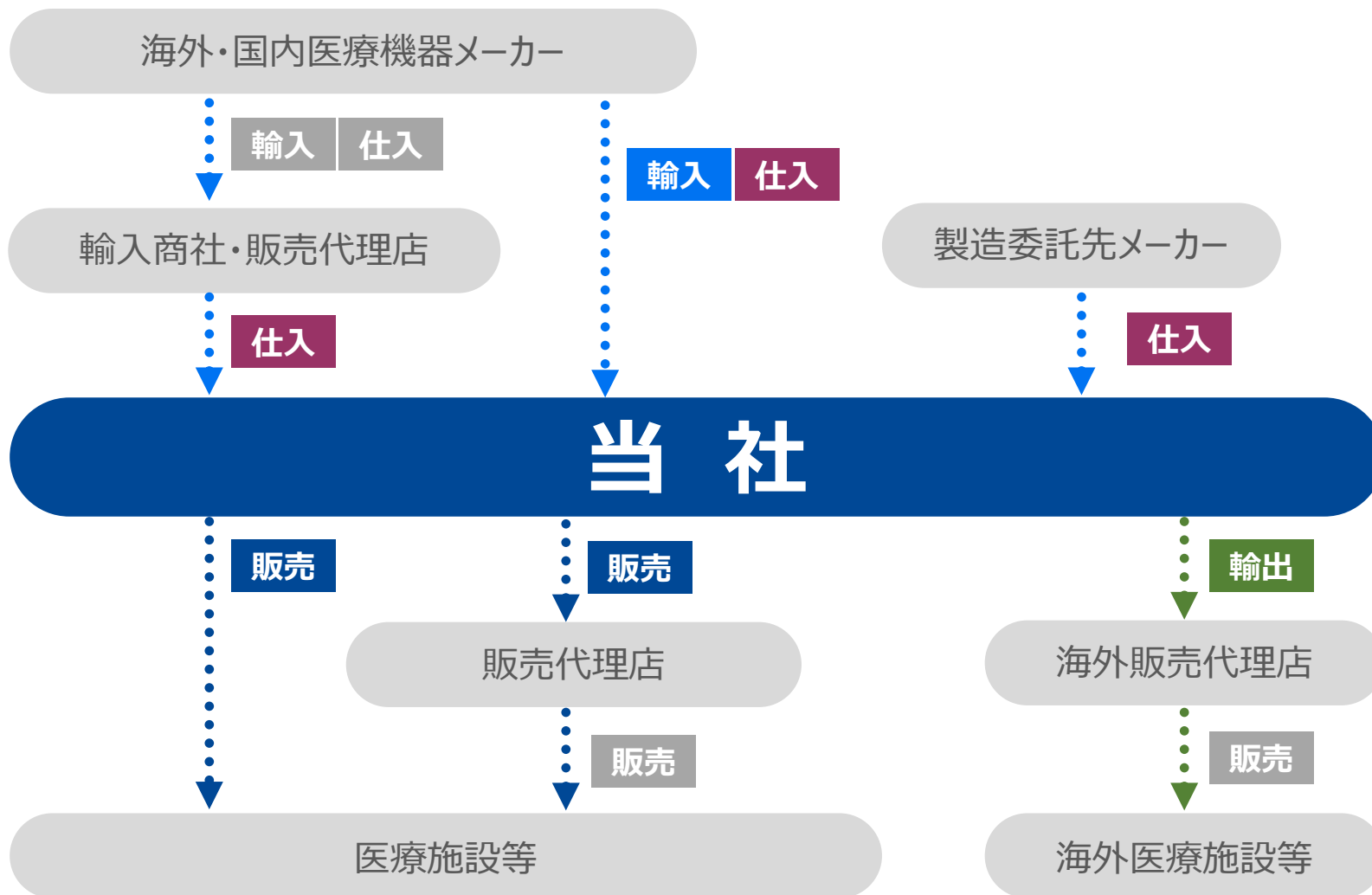


注：事業所がない県にも販売先施設はあります。

- 1986 心臓ペースメーカー販売とフォローアップ業務を目的として、(株)ヘルツを設立
- 1992 心臓電気生理検査用機器の輸入販売を開始
- 2000 自動造影剤注入装置ACISTの輸入販売を開始
- 2000 日本で初めてAED（自動体外式除細動器）を販売 日本航空の機内に搭載
- 2003 エキシマレーザ血管形成システムの輸入販売を開始
- 2004 ディーバイエックス(株)に商号変更
- 2007 ジャスダック証券取引所に株式上場
- 2008 エキシマレーザ心内リード抜去システムの薬事承認取得
- 2010 (株)メディカルプロジェクトより事業譲り受け
- 2013 東京証券取引所第二部に上場
- 2014 東京証券取引所第一部に上場
- 2017 画像マネジメントシステムを開発、販売開始
- 2020 EPSトレーナーを開発、販売開始
- 2021 自動造影剤注入装置RAQUOSを開発、販売開始
- 2022 東京証券取引所スタンダード市場に移行

2025年3期売上高
503.2億円





注：輸出の実績は僅少です

専門性

循環器分野に強い
スペシャリスト集団
高い問題解決能力
医療現場からの信頼

※CDR認定者 127名

首都圏

首都圏で
不整脈分野No.1のシェア
首都圏売上高比率60.9%

※2025年3月期実績

コア事業における競争力の保持



新たな
市場

新たな
事業

新たな
地域

利益率
生産性
向上

組織
強化

強靱な事業ポートフォリオ形成

Purpose

パーパス（私たちの存在理由）

生命と健康を守る。



Mission

ミッション（私たちがなすべきこと）



患者・医師・医療関係者にとって有益な製品・サービスを提供し、最適な医療の普及に貢献する。

Vision

ビジョン（その先にある未来像）



医療の現場や社会から求められるリーダーを目指す。
人種・性別・世代を問わず、多様な個性で変化を捉え、新たな事業を開拓する。

Values

バリューズ（私たちが共有する価値観）



- 私たちは、人に優しい医療の実現に貢献する。
- 私たちは、ニーズを捉え、最適なサービスを考える。
- 私たちは、相互に理解し合い、相互に助け合う。
- 私たちは、自己の目標を定め、常に能力の向上を目指す。
- 私たちは、適正な利益を確保した公正な取引を行う。
- 私たちは、人の『心』をもって正直に行動する。



*Development
Venture*

X (無限の可能性)

IRについてのお問い合わせ先 財務経理部

E-Mail : ir_form@dvx.jp URL : <https://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。